

【下松市】

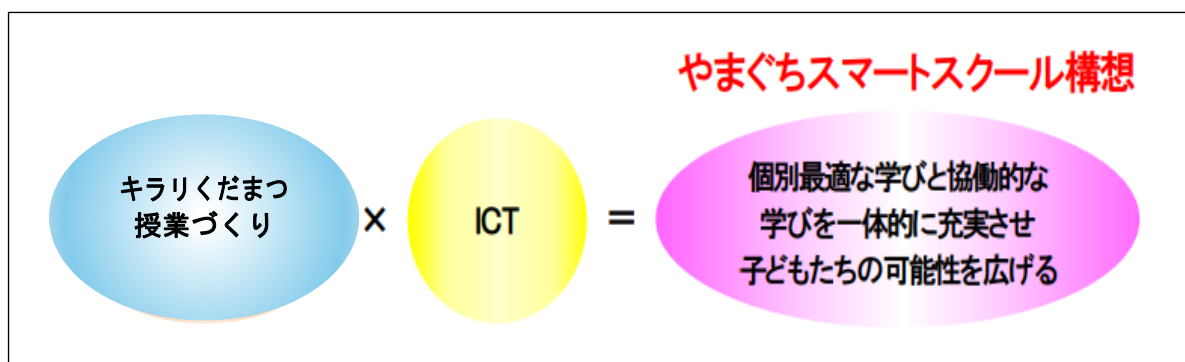
1人1台端末の利活用に係る計画（案）

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築に向け、令和3年1月26日付で中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が答申された。この中で、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することが示された。

このことを踏まえつつ、本市では、令和3年度に整備した1人1台端末と通信ネットワーク等のICT環境を効果的に活用して、「キラリくだまつ授業づくり」で示している3つの工夫と10の視点で学習力を育てる授業づくりを推進している。

本市の「キラリくだまつ授業づくり」とICT環境の効果的な活用を進めていくことで、やまぐちスマートスクール構想をさらに推進していく。



(1) 一人ひとりに合った学び

2022年の後半から生成AIが急速に注目を集めるようになり、その使いやすさや生成される文章等の精度は日々向上している。そのような中で、全ての児童生徒に求められる資質能力の育成を図るために、一人ひとりに合った学びを一層充実させる必要があり、これまでの教育実践に加えて、生成AI等の先端技術を活用することも有効である。本市では、中学校に生成AI・学習アシスタントアプリの導入を予定しており、基礎的・基本的な学力の定着に加えて、問題解決の方法や考え方の習得等の効果を期待している。また、特別支援学級においては、障害の状態に合わせた、より効果的な学びができるように、様々な学習アプリを活用していく。こうした取組を進めることにより、デジタル技術や教育データを活用することで実現可能となる個別最適な学びの充実をめざしていく。

(2) 空間的制約を超えた学び

高速大容量の通信ネットワークを整備したことにより、児童生徒がクラウドサービスを活用しながら他者と意見交換や共同編集を行うなど、協働的に学習を進める場面が増えている。クラウドサービスを活用し、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現といった学習過程を繰り返し、スパイラルに高めていくことでより探究的な学びを充実していきたい。また、ネットワークを通じて海外・地域・他校と接続するなど、新たな学びの機会を創出することも可能であり、多様な他者との空間的制約を超えた協働的な学びの充実をめざしていく。

(3) 安心・安全で一人ひとりを大切にした学び

誰一人取り残されることのない教育の実現に向け、ICTを活用した安心・安全で一人ひとりを大切にした学びを実現する。障害や疾病等により通学が困難な児童生徒には、授業配信等を行うことで、学びの機会を保障していく。また、健康観察アプリを用いて、児童生徒の小さなSOSを発見し、早期支援につなげる取組や、いじめや不登校等、悩みを抱える児童生徒などに対して、1人1台端末を活用した教育相談を実施することで、安心・安全な学習環境での学びの保障の充実をめざしていく。

2 GIGA 第1期の総括

本市では、令和2年度～令和3年度に一人一台端末及び大容量通信ネットワークを整備するとともに、令和4年度にICT教育推進室を新設するなど、ICT環境の充実に取り組んできた。

また、教職員のICT活用指導力の向上のための取組も進めており、支援員3名による定期的な支援訪問（各校3週間に2回程度）、市内教職員限定公開の解説動画や教育関係コンテンツの作成、年3回のICT教育研修会、その他、学校からの要望に対する個別対応などを実施している。

これらの取組の成果として、令和6年度「全国学力・学習状況調査」の学校質問紙調査によると、小・中学校における授業でのコンピュータやタブレット端末等のICT機器の使用頻度については、「ほぼ毎日」、「週3回以上」利用していると回答した学校の割合が小学校は74.3%、中学校は92.0%であり、いずれも全国平均を10ポイント以上上回る結果となった。また、児童・生徒質問紙調査によると、学習の中でコンピュータやタブレット端末を活用することで「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」や「友だちと考えを共有したり比べたりしやすくなる」について、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童

生徒の割合が小・中学校ともに約90%となるなど、児童生徒自身も学習活動でICTを活用する効果を実感していることがわかった。

一方で、児童生徒一人ひとりに配備されたコンピュータやタブレット端末を毎日家庭へ持ち帰らせている学校の割合は、約40%となっており、家庭学習の充実に向けた取組においてやや課題が見られるなど、日常的な端末活用に向けた取組を一層充実させる必要がある。児童生徒自身が普段からICTを文房具として自由な発想で活用できるようにするためには、ICT環境の整備や、授業をデザインする教員のICT活用指導力の向上に加え、児童生徒一人ひとりの情報活用能力を一層育んでいくことが求められる。特に、子どもたちが積極的にICTを活用していくことを前提とした情報モラル教育を推進していく必要がある。

3 1人1台端末の利活用方策

本市では、「やまぐちスマートスクール構想」のもとでICT環境を整備し、GIGA第1期における成果を上げてきた。今後は、社会全体のDXが加速することを踏まえて、教育データやクラウド環境の活用による児童生徒一人ひとりにあった学びの支援や校務のデジタル化を促進し、「やまぐちスマートスクール構想」を次のステージに押し上げていきたい。

そのためにも、端末の整備・更新を確実に行之、児童生徒の1人1台端末の環境を引き続き維持していくことが重要であり、1人1台端末の利活用を前提とした本県がめざす3つの学びの姿を具現化するために以下の方策を推進していく。

(1) 一人ひとりに合った学びの充実のために

本市においては、児童生徒の情報活用能力の育成に向けた教職員のICT活用指導力の向上や生成AIの利活用等の新たな教育活動の実施に対応できるよう、「下松市ICT教育推進の方針」に基づいた支援方針の狙いの焦点化、解説動画の充実、特にデジタルドリルを活用した「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」の充実を進めていく。

また、児童生徒の情報モラルの育成に向けて、県教育委員会が作成した教材「GIGA ワークブックやまぐち」の活用促進を図りながら計画的な指導の充実をめざす。

具体的には、以下のような取組を展開する。

- ・小・中学校における1人1台端末の活用事例の共有。
- ・活用型情報モラル教材「GIGA ワークブックやまぐち」の活用推進。
- ・生成AIの利活用に関する教員研修の実施。

(2) 空間的制約を超えた学びの充実のために

ネットワークを通じて、海外との交流や他校、地域等とのつながりの中で、協働的な学びを一体的に充実させていきたい。その学習の過程では、1人1台端末を活用して「児童生徒が自分で調べる場面」や「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「教職員と児童生徒がやりとりする場面」、「児童生徒同士がやりとりする場面」等、探究的な学習の充実をめざす。

具体的には、以下のような取組を展開する。

- ・地域や学校ごとの端末利活用状況の差をなくし、全ての子どもたちの学びのD Xの実現をめざすための教職員研修の実施。
- ・山口県教育I C T推進協議会での協議を踏まえた、県域での共通クラウドサービスの利活用推進と、好事例の共有。

(3) 安心・安全で一人ひとりを大切にした学びの充実のために

山口県教育振興計画では、「誰一人取り残されることのない教育の推進」として、不登校児童生徒に対する1人1台端末を活用した授業配信による学習支援やスクールカウンセラー等による相談、カウンセリングをオンラインで行うなど、I C T機器を効果的に活用した支援を行うこととしている。児童生徒の学び方が多様化する中で、今後も1人1台端末の効果的な活用方法を検討しながら、「希望する不登校児童生徒等へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の割合」を100%としていきたい。

また、個々の発達段階に応じて、デジタル教材等を活用することで、「障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の割合」を100%となるようにしたい。

具体的には、以下のような取組を展開する。

- ・不登校や障害のある児童生徒等へのオンラインを活用した指導の充実。
- ・児童生徒の発達段階に応じたI C Tの利活用方法についての研修の実施。